令和３年度　横浜市立黒須田小学校　学校教育全体構造図

地域の思い・願い

・思いやり、あたたかさをもった子ども
・相手意識をもった挨拶や話し方ができる子ども
・学びあいを通して高めあえる子ども

国や市の方針

日本国憲法　教育基本法　横浜市基本構想
学校教育法　学習指導要領
横浜教育ビジョン 2030

児童の思い・願い

○楽しく安心できる学校生活
○一緒に遊んだり学んだりする友達・仲間
○みんなで高めあえる楽しい学校
○多くの体験の場
○わかる授業

保護者が子どもに身につけさせたい資質能力

○基礎基本を身につけ自ら問題を発見しより良く解決する力
○自らを律する態度と人を思いやるやさしさ
○自分の役割や働くことの意義を理解し行動する力
○主体的に考え、意欲的に学び続ける力
○自分を大切にし、しなやかに生きる力

職員が子どもに身につけさせたい資質能力

○基礎基本を身につけ自ら問題を発見しより良く解決する力
○自らを律する態度と人を思いやるやさしさ
○自分の役割や働くことの意義を理解し行動する力
○体力づくりを通じ心身ともにたくましく生きる力
○自己を見つめ、多様性を尊重し共生する力

学校教育目標

えがおいっぱい　げんきいっぱい　ひらめきいっぱい　かがやく子ども

知　確かな学力により主体的に考え、よりよく解決する力を育みます。
徳　公共心や規範意識、礼儀を大切にする豊かな心を育みます。
体　健やかでたくましく、しなやかな体を育みます。
公　地域や社会のために他者と協働する力を育みます。
開　多様性を尊重し共生する力を育みます。

推進ブロック中学校教育目標

◎自分らしく　共に生き
　　未来を切り拓く子

学校教育目標を実現するための具体的な目標

知
○基礎的、基本的事項をいかして知恵を働かせながら、問題解決に意欲的に取り組み、自ら考え判断する力を育成します。

徳
○公共心や規範意識、礼儀を大切にするとともに、自他の生命や心を尊重する豊かな情操や人権感覚、責任感を育成します。

体
○進んで運動したり健康を保持したりしようとする生活習慣を身につけ、生涯にわたって心身ともにたくましく生きる力を育成します。

公
○どの集団においても自分の役割や働くことの意義を理解し、人と関わりながら実践する力を育成します。

開
○様々な人とのコミュニケーションを通じて、自己を見つめ多様性を尊重し共生する力を育成します。

中期取組目標

対話を大切にし、主体的に課題を解決する子どもを育みます。

○一人ひとりの子どもが学習の楽しさを実感し、主体的に問題発見や課題解決に取り組むことができる授業づくりを推進します。
○人との関わりの中で、互いを認め、思いを伝えあうことのできる豊かな人間関係力の向上を図ります。
○地域の教育資源を活かし、「生活・総合」を中心に協働して課題を解決する力やコミュニケーション力を高めます。
○教職員間の連携や相互啓発を促進し、学校教育目標の実現に向けて活力ある組織的な取り組みを行います

低･中･高学年ごとの重点目標（身に付けさせたい資質･能力）

	低学年	中学年	高学年
【徳】	集団生活のルールを守り、進んであいさつしたり感謝の気持ちを表したりする。	自他の生命や心を尊重し、自分や友達のよさに気付き、お互いに助け合おうとする。	公共心や規範意識、礼儀を大切にするとともに、自他の生命や心を尊重した言動をとろうとする。

重点取組分野

豊かな心
・生活・総合の時間を中心に地域・保護者をはじめ様々な「ひと」とのつながりを生かした学習展開を図る。
・家庭・地域を巻き込んだあいさつ運動を展開する。
・なかよし学級との交流の形態の工夫を図る。
・重点研究では特別な教科道徳に取り組み、対話を大切にした学習展開を図る。

生きてはたらく知
・主体的に問題発見や課題解決に取り組む授業をさらに進め、児童が自分の思いや気づいたことを積極的に伝えることができるような授業の工夫を図る。
・朝のスキルタイムを週３回に増やし、基礎基本の定着を図る。

健やかな体
・全校で「縄跳びカード」に年間を通して取り組み、体力の向上を図る。月に１度の検定日を設定し児童の意欲の継続を図る。
・学校保健委員会を中心に地域・家庭を巻き込んだあいさつ運動を展開する。
・生活総合を中心に食育を実施する。

特別支援教育
・療育センターあおば、通級教室、学校カウンセラー等と連携し、個に応じた支援を進める。
・子どもの困り感を共有し児童理解を深め指導に生かす。
・特別支援教室の指導体制の確立を図る。

児童指導
・児童支援専任を中心にした情報の共有化を図り、組織的に未然防止や迅速な初期対応を行う。
・不登校支援の組織的対応の充実を図る。
・３年生以上で一部教科担任制を実施し、学年経営力の向上、児童理解力の向上を目指す。

地域連携　学校運営協議会
・地域行事等への参加へ向け子どもへの広報を行うとともに、教職員の参加体制を見直す。
・教育ボランティアや校内巡回等地域の力を積極的に活用する。
・学校運営協議会を通して、経営方針や行事の振り返り、学校評価等について発信する。

自分づくり教育
・生活・総合の学習を中心に、豊かな体験を通して多くの人と関わり自己有用感や学級・学年の所属感を高める。
・キャリアパスポートを作成し、自己を振り返り自己の生き方や将来を真剣に考えることができるようにする。

いじめへの対応

○月１回の定例会のほか、随時必要に応じていじめ防止対策委員会を実施する。
○[子ども相談レター]の周知と活用
○年３回の児童アンケートと担任と児童の個人面談で小さな変化を見逃さないという教師の意識向上
○いじめを起こさない風土づくりのために子どもと教職員の人権意識の向上

人材育成・組織運営・働き方改革

○主幹教諭を中心に各部署等での情報や意見を吸い上げ、毎週の主幹会で迅速に検討や意見交換ができるようにする。
○メンターチームとミドルリーダーの連携を図り、必要感のある研修を継続する。
○ペーパーレス化をさらに進める。
○事務処理月間を９月と３月に設定し、働き方改革へつなげる。
○定時退勤日の確実な設定と実施。

幼・保・小・中との連携・協力

学校評価